

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3 年 4 月 2 日

事業所名児童発達支援・放課後等デイサービス そら

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		1階部分117.44㎡において定員10名の兆行くスペースを十分確保しています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		障害特性に応じたきめ細かで、安全に配慮した支援ができるよう基準以上に配置しています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		構造化への環境整備と共に、階段やトイレの手すり、玄関スロープの設置、室内のバリアフリー化への配慮をしています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々の打ち合わせや、振り返り、スタッフ会議で協議を重ね、業務改善に取り組んでいます。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者向け評価表をもとに事業所の評価を実施することの他、日々のきめ細かな連携のもと意向を把握し業務改善に繋げています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページはもとより、保護者様へのお知らせとして不定期に行っています。公表は各家庭に配布しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価は行っていませんが今後必要があれば行って行く方向です。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		顧問の特別支援教育士SVやASD療育の実績をもつ理事から内部研修を受けています。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		初回時、時間をかけてアセスメントを行うと共に適宜見直し、ニーズと課題を検証する場を設けて支援計画を作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		より簡便なツールを使用しています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		担当者会議を行い立案しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		日々の生活指導を中心に、自立課題、運動、乗り物遊びの保障など組み込み全面発達をうながしています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		無理の無いゆったりした環境の中で、動と静のバランスを考え、自主的に過ごせるよう配慮しています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		それぞれが刺激し合って自立課題に取り組み、運動やテーマを決めてグループ活動を楽しめるよう計画しています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日々の支援開始前に、前回の療育上の問題点を協議し、改善案を出し合いながら、その日の支援内容を確認しています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援が適切であったか振り返り、改善すべき課題を見つけ記録し、共有しています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録簿には支援の在り方に対し子どもの反応を逐一記載。支援の根拠を明確化すると共に改善点は即実行しています。	
18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		保護者のニーズや子どもの願いをすりあわせて検証しつつ、より適切な支援を追求しています。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		基本は、遵守しています。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参画。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		難しい問題の折は、学校と家庭と事業所とでノートを作り、子ども理解に努めています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	該当者なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保護者の了解のもと、適切に情報共有と相互理解に努めています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			該当者無し	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要な場合は今後も積極的に助言や研修を受けていきます。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	コロナ禍のため、控えています。	自由参加のもとで、感染予防に務めながら地域で交流していきたいと思えます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		時間の許す範囲で参加しています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時やノートを活用して伝え合っています。事業所での対応について理解が得られるよう取組んでいます。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		大枠の中でのペアレントトレーニングは実践していますがプログラムを組んで提供していきます。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時や適宜必要なときに丁寧な説明と了解を取っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		家庭訪問や、電話相談も取り入れて適切に支援を行っています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		必要で無いと考える方もおられ、自由参加のもとでの開催を提案してみたいと思えます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情受付機関を設置し、保護者様に周知しています。苦情に対し迅速に誠意あふれる対応を心がけています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		不定期に行っている状況のため、定期的に発信していく方向です。	
	35	個人情報に十分注意している	○		記録ノートにもイニシャルで記載し、細心の注意を払っています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	防災の観点からも検討していきたいがコロナ禍のためできていない状況です。	情報発信をすることで、地域との連携をはかります。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		保護者様への周知の徹底をはかります。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		ヘルメットを身近に置いたりして定期的に訓練を行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		適切に対応しています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		やむを得ず身体拘束を行う場合、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得て、サービス計画に記載しています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		該当者無し		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		出勤時には、危険場面を想定した文書を読み、危機感の共有と安全への配慮義務を徹底しています。	